



水産情報速報版

H22. 1. 8. No1268
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行＝指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>



謹賀新年 今年も宜しく願い申し上げます。

1. 年頭のご挨拶 静岡県漁業協同組合連合会 代表理事会長 橋ヶ谷善生

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、県下漁協の組合員並びに J F グループの皆様方に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年の国内経済は 100 年に一度といわれた世界同時不況を何とか切り抜け景気は持ち直してきているといわれるものの、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある中、物価が持続的に下落する緩やかなデフレ状況や最近の円高による景気への影響が懸念され、今もって先行き不透明な状況が続いております。

一方、新年を迎えて漁業界は、長年に亘る水産資源状況の悪化や漁業就業者の減少・高齢化、担い手不足等漁業生産構造の脆弱化により漁業・J F グループの経営は依然として厳しい状況が続いております。

そうした中、J F グループは昨年 10 月に開催した「J F 全国代表者集会」において、今後取り組むべき 5 年間の新運動方針「J F グループ組織・経営・事業戦略」を採択しました。今後この新運動方針に係る県域説明会の開催を通じて会員各位に理解を深めていただき諸改革に取り組むこととしております。

また、これまで最重要課題として取り組んできました県下 4 地区漁協合併構想に基づく組織再編は、一昨年に 6 漁協が、昨年 3 月末には新たに 2 漁協が加わった 8 漁協による伊豆漁協が誕生し、段階的合併を目指してきた伊東・熱海地区についても本年 4 月 1 日付けで伊東市、網代港漁協の合併で「いとう漁協」が誕生する予定になっており、他地区についても前向きな取り組みが始まり一定の成果が上がりつつあります。引き続き新年を迎え気持ちを新たに、漁協系統組織の再編強化に一層頑張らなくてはならないと考えております。

なお、昨年 11 月には本会並びに県信漁連の創立 60 周年念式典並びに祝賀行事を開催することができ、会員をはじめ水産関係者各位、先輩諸兄のご指導ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

年頭に当たり、所感の一端を申しあげましたが、私も確固たる信念の下で窮状打開に向け努力して参る所存でありますので、皆様方の更なるご理解ご協力を賜りたく存じます。

結びに、本県漁業並びに J F グループの益々の発展と皆様方のご健勝を祈念して、新年の挨拶といたします。

2. 合併「いとう漁協」として 4 月スタート 一本会が立会い仮契約書調印式—

伊東市漁協と網代港漁協では、去る 12 月 9 日伊東市漁協において、平成 22 年 4 月 1 日に

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

合併することとし、両漁協組合長と本会橋ヶ谷会長立会いのもと、合併仮契約書の調印式を執り行いました。

調印式後の 12 月 18 日には、両漁協において臨時総会が開催され、合併が承認されました。今後、県知事の承認など諸手続きを経た後、本年 4 月 1 日に「いとう漁協」としてスタートを切ることになりました。

3. 県知事賞に伊豆漁協稲取支所青壮年部 ー第 15 回県青年・女性漁業者交流大会ー

静岡県並びに本会では、12 月 4 日静岡市市民文化会館において、県下の漁協青壮年・女性等約 100 名の参加を得て、第 15 回静岡県青年・女性漁業者交流大会を開催しました。

まず、県産業部の日向水産局長及び本会橋ヶ谷会長の主催者挨拶に続き、早速各グループによる発表に入りました。発表テーマと発表者は以下のとおり。

①「キンメダイ産地の誇りにかけてー稲取キンメ日本一を目指してー」伊豆漁協稲取支所青壮年部 岩瀬清敏氏 ②「さくらえびの港からおいしい文化を全国にー地元の子供と都会の子供に漁業体験をー由比港漁協女性部 熊谷升見氏 ③「しらすの海を守るー吉田町漁協青壮年部 福世速己氏 から 3 件の活動実績発表が行われました。

また、この機会を捉えて県漁業士会・塩谷会長より「漁業士会 15 年の歩みと記念イベントの開催」と題して、組織の概要や未利用魚の開拓・調理方法などの P R や諸活動の紹介が行われたほか、県立焼津水産高等学校 3 年の見原沙紀さんから「内浦地区における漁村活性化研究」と題した研究発表が披露されました。

さて、審査結果については、審査員 7 名（審査委員長：安井 港県水技研所長）による厳正な審査の結果、伊豆漁協稲取支所青壮年部が市場や消費者のニーズが多様化する中で、「稲取キンメ」の魅力向上させるための改善や新技術導入による付加価値向上に積極的に取り組んでいることが評価され、最優秀賞（県知事賞）に選ばれました。更に、3 件の発表には、県漁連会長からも賞状と記念品が授与されました。

なお、伊豆漁協稲取支所青壮年部と由比港漁協女性部の発表内容は、3 月 8.9 日東京で開催される全国大会に出場するに相応しいとして共に推薦されました。

4. 渥美涼子さん（榛原高校）が受賞！ 浜料理の部で審査委員長特別賞

J F 全漁連中央シーフードセンターが、12 月 6 日東京：服部栄養専門学校で開催した第 10 回シーフード料理コンクールにおいて、事前の書類審査で選ばれ、当日の実技審査に臨んだ本県代表の渥美涼子さん（榛原高等学校 2 年）の「金目鯛のとろとろきんちゃく」が、浜料理の部で審査委員長（服部幸應審査委員長）特別賞を受賞しました。

これは、昨年 11 月に県おさかな普及協議会が主催した「第 5 回イキイキ高校生おさかな料理コンクール」で、一おすすぬ我が家の自慢おさかな料理ーをテーマに出品され、今回の全国大会に推薦されていたものです。静岡県で漁獲される特産魚を使った高校生らしいユニークな発想のオリジナル料理が高く評価されました。

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう